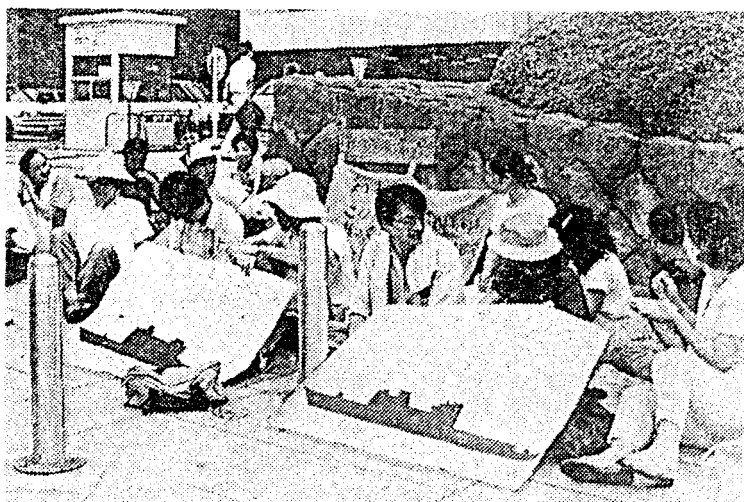


月刊反トマホーク通信

No. 34

88.8.20

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パレ青山502 トマ喰虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101

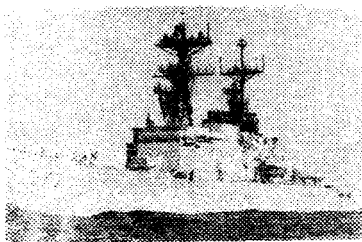


ファイフと
バンカーヒルが

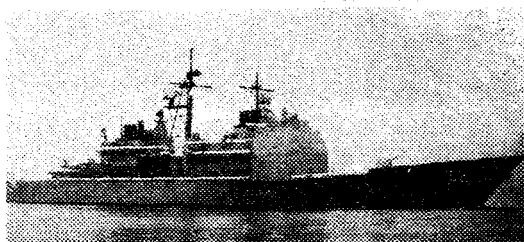
知事は母港化をきっぱり拒否を！
と神奈川県庁前に座り込んだ人々

●横須賀入港の
日時はまだわかり
ません(20日正午現在)
19日のNHKは、31日と流し
ましたが、決定的
とはいえないようです。
25日説もあり。

太平洋を航行中……
横須賀に向かって



今月末にも横須賀配備が
予定されている米駆逐艦
ファイフ(5)とイージス艦
バンカーヒル(6)



トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員(月間会費)

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

●参加会員(月間会費)

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間にも！

入港目前、動き始めた神奈川県知事

一歩前進、だが七分の不安

ファイフとバンカーヒルが八月八日午前十一時、相次いでサンディエゴを出港した。行先は横須賀。この知らせが現地の平和団体から届いたのは八月九日のことだった。

やはり「八月」をえらんだのだ。

二隻が横須賀へ向けて発ったその日、長崎市の本島等市長はこのように宣言した。「非核三原則が国是となつて二十年、その空洞化はもはや許されない時にきた。アメリカの艦船の寄港に対して、日本政府は主体性を持つて核兵器の有無を検証し、非核三原則を厳しく守る立場を鮮明にすべきである」(平和宣言) 被爆地長崎から発せられたこの叫びは「彼ら」の耳にはとどかなかつたのだろうか。神奈川では「横須賀をトマホーク艦の母港

にさせない県民運動」のメンバーが十五日から知事との面会を求めて県庁前で座り込みを始めた。主婦、学生、勤め人、子供たち、八十才のKさん、京都から駆けつけたHさん、それぞれの思いを胸に十七日まで座った。横須賀では同じく十五日から「毎日デモ」がスタートした。

県庁前で座り込みの最中の十六日、長洲神奈川県知事は記者会見で「私自身も大変憂慮している」と述べ、「事前協議がないから非核三原則が守られているという説明では県民の不安は解消できない」として「今までは一歩踏み込んだ対応を検討している」と考えを明らかにした。

具体的な対応が明らかにされていないこと

に「七分の不安」を抱きながらも、これを「一歩前進」と評価して「県民運動」はいったん座り込みを解除、十八日に改めて副知事と会見し核の有無についての「神奈川判断」を求めた。(資料2)

深まる不安...

十八日、米国の「政策研究所」から私たちに送られたデータは両艦の「核疑惑」をよりいっそう深めるものだった。ジョシュ・ハンドラー研究員は海軍当局の責任ある人物の発言を引いて、ファイフとバンカーヒルは核トマホーク「配備承認済み」であること、ファイフは十一発、バンカーヒルは六発の核トマホークを積んでいることを伝えてくれた。(資料1)

わずか、十日の間に状況はこれだけ動いた。その発端には長崎の「平和宣言」があった。泣いても笑っても事態は大詰め。母港化を水際で食止める可能性は、それでも確かに脹らんでいるのだ。

ファイフなどと横須賀配備

一歩踏み込んだ対応へ

長洲知事、強い懸念表明

長洲知事は十六日の記者会見で、核弾頭付き巡航ミサイル・トマホークを搭載可能な米海軍の駆逐艦ファイフ(七、ハ一〇)と巡洋艦バンカーヒル(九、六〇〇)が横須賀に配備される問題について、「私自身も大変憂慮している」と述べるとともに、「今まで一歩踏み込んだ対応を検討している」と、地元知事として国などに核疑惑の不安解消などを厳しく迫っていく考えを明らかにした。



長洲知事

知事は「米(米)間」でINF全廃条約が締結されるなど陸のほうはよくなっているが、海のほうは軍拡になる心配がある(ファイフなどの横須賀

配備は、今の流れと逆行するもので、重大な関心を持っている」と強い懸念を表明した。さらに「県はこれまでにも非核三原則の順守を再三に申し入れてきたが、事前協議がないから守られているというのが国の回答だ。しかし、県民は、米軍から話がないからという態度でいいのか、と疑問と不安を持っており、国はこうした不安を解消する必要がある」と述べ、国の態度

に不満を示した。こうした中での新たな横須賀母港化計画について知事は「県民の不安は、これまでも違つて、質的に一段と深い」と、母港化反対の市民運動などに理解を示すとともに「横須賀入港の時期、配備とはどういう意味か、などについて情報の確認を急いでおり、県としてどういう対応をすべきか検討している」と述べた。ファイフなど二隻は九日、

米・サンジエゴ基地を出港、二十五日前後に横須賀に入港するとの情報が伝わっているが、県が外務省などから得ている非公式情報では、予定より遅れそうだ、という。いずれにしても、県としては地元横須賀市とも連携して、国などに厳しい対応を迫る方針だ。

神奈川 88.8.17

入港日には大小様々な船で抗議行動をいたします。(8パーシ参照) また陸での行動もあります。トモ会社に問い合わせ下さい!!

・大島:「ヒールズスピリット88実行委」は19日、1万2356の署名を県知事に提出した。21日には原爆ドーム前と県市内で座り込みを行う。

・横須賀:「安保を容認する私は田舎者」とかたくな市長。13万の署名に込められた市民の声は聞かれないのだろうか。「トモ会」の母港化に反対する市民の会は20日、市議会に請願書を出す。21日には市民アンケート調査。そのあと、デモ(40~50人)が行われる。

・東京:「首都圏運動」は22日、銀座通りをデモ行進する。

短信

バンカーヒルは⑥、ファイブは⑪の核トマホーク

APPENDIX A: Nuclear-capable and Nuclear-powered Ships of the United States

Ship Name and Hull Number	Number Deployed	Years Commissioned	Homeport	Nuclear Weapon(s)
Thomas S. Gates (CG 51) Bunker Hill (CG 52) ←			Norfolk, VA San Diego, CA ³⁷	3 ASROC 6 TOMAHAWK (TLAM/N) SLCM ³⁸
Deyo (DD 989)			Charleston, SC	3 ASROC, 2 TOMAHAWK (TLAM/N) SLCM
Ingersoll (DD 990)			Pearl Harbor, HI	3 ASROC, 2 TOMAHAWK (TLAM/N) SLCM
Fife (DD 991) ←			San Diego, CA ⁵²	11 TOMAHAWK (TLAM/N) SLCM

資料1.

政策研究所

1988年8月17日

質問におこたえして 1988年3月21日 米下院歳出委員会における国防厚子カ次官 ロバート・バーカーの証言のコピーを送ります。

彼は、「50隻以上の水と艦と潜水艦が TLAM/N (対地攻撃核トマホーク) 装備承認済みである」と指摘しています。また、1988年3月1日には、海軍の巡航ミサイル計画事務所は、電話で私に次のように言いました。「この数の中には 5隻の タイコンテロカ級軍艦と 8隻の スプルーアンス級軍艦が含まれている。」核承認済みの船の船名には言及しませんでした。しかし、1988年3月時点で タイコンテロカ級で垂直発射システムを備えている船は 5隻しかありません。バンカーヒルはその一つです。従ってこれは バンカーヒルは核トマホーク承認済みであることを意味します。同様に、1988年3月で 8隻しかない スプルーアンス級の トマホーク装備艦とは、すでに 装甲箱型発射台を装った 7隻の船と垂直発射台を装備した 1番艦、つまりファイブです。従って、これはファイブもまた核承認済みであることを意味します。

これであなたへのお答えになっていると希望します。さらにお役に立てることかあれば電話下さい。

ジョシュ・ヒンドラー
研究員

バンカーヒル、ファイブは
「核承認済み」
米海軍巡航ミサイル
事務所の証言

ヨコスカを
トマホーク艦の
母港に
するな!!

ハダキを
出そう!

<input type="checkbox"/>	横須賀市小川町 11	<input type="checkbox"/>	横浜市中区日本大通り 1
<input type="checkbox"/>	市役所内	<input type="checkbox"/>	県庁内
8	横須賀市長	1	神奈川県知事
3	横山和夫様	3	長洲一二様
2		2	
<input type="checkbox"/>	東京都千代田区霞が関2-2-1	<input type="checkbox"/>	東京都港区赤坂1-10-5
<input type="checkbox"/>	外務省内	<input type="checkbox"/>	アメリカ合衆国大使館 気付
0	外務大臣	7	
0		0	
1	宇野宗佑様	1	R・レーガン大統領様

もちろん、日本語でよい

府に伝えられることを要請します。(この点については参考資料として2年前、戦艦ニミッツ号寄港時に佐世保市長が外務省にあてた文書を添付します。)

1. 核の有無の検証について

8月9日に長崎市長が「日本政府は主体性をもって核兵器の有無を検証し、非核三原則を厳しく守る立場を鮮明にすべきである」と平和宣言で述べたことに知事が言及したと報せられました。私たちはこの文言の中で「主体性をもって」という行が大切であると思います。私たちは、日本政府に主体性をもった検証を求めるとき、知事もまた核の有無について、主体性をもった判断を持って政府にむかうことを要請します。

かつて、ニュージーランドの非核政策を生み出すのに貢献した平和運動家が、入港する米艦の核の有無についてニュージーランド政府(外務省、国防省、情報局)が入手した情報と民間平和団体が入手した情報を比較したとき、後者の方が優っていたと語りました。いま日本の非核の実現のためには、世界中の研究者が協力を惜しみません。「神奈川判断」が最高のものになるよう私たちも協力します。

1. ファイフ、バンカーヒルは核トマホーク配備・使用承認済み

アメリカ政府が核の有無を否定も肯定もしない中で、100%核の存在を証明することは不可能であることは知事もご存知の通りです。したがって、ギリギリに疑惑の証明を積み重ねる必要があります。

今日私たちは数時間前に世界的なこの分野の権威である研究者が「トマホークの配備を許すな!全国運動」にファックスで送ってきた情報と証言を、在界で初めて知事に提出します。それは、政策研究所のジョシュ・ハントラー氏が、直接米海軍巡航ミサイル計画事務所に確認したもので「ファイフ、バンカーヒルは核トマホーク配備・使用承認済み」という内容を示しています。また、ジョシュ・ハントラーはウィリアム・アーキンと共同で、ファイフの核トマホークは11発、バンカーヒルの核トマホークは6発と算定しています。

私たちは知事が、これらを含むしっかりとした判断をもって政府と面会されることを求めます。

以上

(資料2)

申し入れ書

1988年8月18日

長洲一ニ神奈川県知事様

横須賀をトマホーク艦の母港にさせない県民運動

代表 田村 清

横須賀を母港とするため2隻のトマホーク艦 ファイフとバンカーヒルが現在の母港サンジゴを離れたことを知った私たちの気持ちをお察下さい。私たちは、知事の母港化反対の一日も早い意見表示を求め、また県民に事態の切迫を訴えるために、8月15日から県庁前で坐り込みました。

そんな中で、知事は早速8月16日の記者会見でこの件について強い懸念表明をなさったことに、まず感謝いたします。私たちは新聞各紙の報道を注意深く読みました。私たちの感想は、知事からかたてない深刻な現状認識を示し、一歩踏み込んだ対応をなされる方針を打ち出されたことに安心三分、しかし、まだ具体的な内容が何一つ示されていないことに不安七分といったところでは。しかし、私たちは、新聞各紙に示唆されているいくつかの点について、知事が実行に移され、最終的には母港化反対の強い姿勢が示されることを切に願って一たん坐り込みを解くことにしました。

以下に新聞各紙に報道されたいくつかの点について、私たちの要望を申し入れます。

1. 事前協議の政府説明について

知事は「事前協議がなければ核はない」という政府説明が、もはや県民を納得させるものではないと記者会見で述べたと伝えられます。これは正確な事実認識だと私たちも思います。私たちは、知事が自治体の長の責任において、この認識をはっきりと文書で日本政

フア、バンカー・セシがやってくる日に

いっしょに船を出ようよ

海上抗議行動の呼びかけ



平和船団は行くのだ

出港日時は未定、連絡下さい。子供づもらんOK。

それでもやって来るのなら、力一杯抗議の声を！

陸の上でもまたよし。でも、なんかもたらない、と思ふあなた、じゃあ一緒に船を出しましょう。

小さなボートやヨットも出します。ボートやヨットを持ってない、借りようにも心当りが無いという人、あきらめてはいけません。

それでも船は出せるのです。「横須賀をトマホーク艦の母港にさせない県民運動」と「反トマ首都圏運動」は合せて七隻の船をチャーターして海上抗議行動を行います。

コンクリートで固められた海岸、茶色く濁った水、これが私たちの海。その海を肌で感じながら、平和への思いを力一杯訴えましょう。

出港は横浜港大桟橋のつけねから。日時はもちろん未定！ 下記にお問合わせ下さい。

定員無し。人が多ければ船を増やします。

●カンパは船に乗るひと、乗りたいけど乗れない、でも出したい人みんなまとめて一口千円以上です。

「連絡先」

〇四四(七三三)一三四六 宇賀神(県民運動) 夜のみ ヘトマ喰虫社でもOK

★自前のボートやヨットを出したい人大歓迎。連絡下さい。

〈編集後記〉

入港近しいの寂にあふたしく動きまわりの、ぐうぐうと最新の情報と大急ぎで発行しました。用を急いでいた原稿とは全く違うものになってしまいました。お許しを！
今月は、二回出すことにしよう。(た)

月刊反トマホーク通信 No 34

一九八八年八月二〇日発行

*発行 トマホークの配備を許すな全国運動

〒一五〇東京都渋谷区渋谷二一五一九パル

青山五〇二 トマ喰い虫社

〇三三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)